

2018

JAHFA
JAPAN AUTOMOTIVE HALL OF FAME

論壇
Contribution to
JAHFA



スズキのものづくり

スズキ株式会社
代表取締役社長

鈴木 俊宏

スズキのものづくりの原点

スズキのものづくりは、創業者の鈴木道雄が木鉄混製の足踏織機を作り始めた1907年に始まりました。道雄が製作した足踏織機は、従来の手動式の織機と比べ生産能力が極めて高かったことから、たちまち近隣の評判になり、これに自信を得た道雄は1909年に鈴木式織機製作所を設立致しました。

後に道雄の発明の第一号となる織機は、縞や格子模様の布を織るときに用いる、色の違う横糸を通す二つの「杼箱」という道具を自動で入れ替える機構を持つもので、浜松のある遠州地域の織機産業の発展に大い

に貢献をしました。その後自動織機が主流になると、繊維産業が日本からアジアの国々に進出するようになり、スズキの織機も海外に輸出されていきました。その頃には織機自体も金属製となり性能も格段に向上し、この時の金属加工技術は後の二輪車・四輪車の技術の基礎となっていきます。

スズキ創業者 鈴木道雄の言葉です。

「常にお客様の側に立って発想する。お客様が欲しがっているものなら、どんなことをしてでも応えろ。頑張ればできるものだ。」

道雄のものづくりにかける熱い想いは、現在のスズキにも引き継がれています。



鈴木式織機製作所

20年ぶりに全面改良した「ジムニー」

スズキは、今年の7月にジムニーを20年ぶりに全面改良して発売しました。

ジムニーは1970年に軽自動車として唯一の四輪駆動車(当時)として発売して以来、悪路走破性とコンパクトな車体による取り回しの良さから、様々な作業現場や山間部、積雪地の重要な交通手段として活躍してきました。同時に、本格的な四輪駆動の性能と親しみやすさからレジャーを目的とした需要も開拓し、日本国内でのコンパクト四輪駆動車の市場を築き上げてきました。



初代ジムニー



新型ジムニー

ジムニーはスズキを代表し、歴史のあるモデルというだけではなく、スズキのものづくりの基本である「お客様の立場になったものづくり」の象徴でもあります。

ジムニーをお使いいただくお客様の中には林業などのお仕事に使われる方が多くいらっしゃり、その車は深い森や山の中の道なき道に分け入り、行き止まりや狭い場所でUターンする必要があります。その為、ジムニーにはそのような過酷な使用環境においても安全・安心にお使い頂ける走破性、小回りの利くボディサイズが求められており、これらのニーズに高い技術でお応えし、チャレンジし続けることが「ジムニーらしさ」に繋がる大切なポリシーであると考えています。

自動車を取り巻く環境の大変換期を迎えて

現在、百年に一度の大変革といわれるCASEの波が自動車業界に押し寄せています。

めまぐるしく変わるこの大変革時代を迎える今、これまでのように今からできる事だけを積み上げていく旧態依然としたやり方では、先にある未来を描くことは出来ません。30年あるいはそれより先の未来の「あるべき姿」を思い描き、その未来から遡ってロードマップを描き、限られたリソースを全体最適しながら技術開発を進めていく必要があります。

そのCASE時代へのロードマップにおいても「お客様の立場になったものづくり」は、決して忘れてはならない指針であることに変わりはありません。

例えば自動運転技術は、高性能かつ高額なセンサーをいくつも付ければ、早期に実現できるかもしれませんが、しかしそれでは、軽自動車、コンパクトカーとしてお求め易い価格でご提供する事が出来ません。スズキはいつの時代も世界中の多くのお客様にモビリティの恩恵を受けて頂けるよう取り組んで参りましたが、CASE時代においてもこれまでと同様、性能とコストの両面で最適なセンサーやシステムを採用し、本当に必要な技術を搭載した商品を、一人でも多くのお客様にお届けできる様に開発を進めて参ります。

最後に

現在は、「モノよりコト」の時代と言われています。しかし私は、「モノがなければコトもない」と思っています。おもしろい、楽しい、ワクワクするモノがあるから、コトが広がる。スズキはこれまで培ってきた「モノ」づくりにこだわり、お客様の立場になったより良い「モノ」をご提供しながら、多様化するニーズやその先にある「コト」にも目を向けて参ります。また、社員一人ひとりが協力し、チームスズキとして、スズキが思い描く未来、ワクワクする「モノ」づくりの実現に向けて取り組んで参りたいと考えています。